

ミレニアム開発目標 (MDGs) から
持続可能な開発目標 (SDGs) へ

私たちはより良き未来に向かって、どう進むべきなのか。その進路を示したのが、ミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals: MDGs) です。

基本となったのは2000年9月の国連ミレニアム・サミットで採択された「国連ミレニアム宣言」。平和と安全、開発と貧困、環境、人権とグッドガバナンス (良い統治)、アフリカの特別なニーズなどを課題として掲げ、21世紀の国連の役割に関する明確な方向性を提示しました。さらに1990年代の国際会議などで採択された国際開発目標を統合してMDGsができ、2015年までに達成すべき8つの目標が掲げられました。

MDGsの多くは子どもの健康と福祉に直接関連しているため、ユニセフは多くのパートナーと協力し、これらの目標達成を目指して努力しました。およそ15年間の年月をかけて、子どもたちや若者、その家族が直面していた多くの問題を解決し、生活を改善する原動力となりました。乳児死亡率の低下、教育の普及、極度の貧困の改善、安全な水の確保など、多くの成果が見られています。

MDGsの達成期限年である2015年は、世界がこれからの新時代への道筋を立てる歴史的な時でした。次なる開発アジェンダ (行動計画) を作り上げる過程で、政府や市民、国連機関などで議論が行われ、9月25日

世界の課題と向き合い
自分にできることを考える

井戸のポンプの回りに集まった少年たち。この明るい笑顔を守りたい。
2011年5月アフガニスタン ©UNICEF/UNI111390/Foutan

に「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs) が国連サミットで正式に採択されました。SDGsは、2030年までに極度の貧困や飢餓をなくし、すべての人に生涯にわたって質の高い教育を提供し、地球を守り、そして平和で誰もが受け入れられる社会を推進するという、野心的な世界の行動計画を示すものです。

ユニセフに関連する分野では、MDGsに含まれていた貧困、栄養、保健、教育、水と衛生、ジェンダーの平等といった子どもたちへの約束に基づき、さらに子どもの保護、早期幼児教育、不平等の削減という新たな目標

が加えられています。

テロや紛争、災害など世界の悲惨な出来事がメディアを通して、日々伝えられています。その背後には、貧困や格差など個人の尊厳を脅かすような現実があります。「朝日新聞」(2016年2月27日)記事に、前国連事務総長コフィ・アナン氏は「課題解決のためのリーダーシップの欠如こそが、私たちを前進させない。いまこそ市民が動く時だ」と語っています。投票や消費行動、情報発信など、自分にできることはなにか。今こそ私たちの関心の持ちよう意識が深く問われているのではないのでしょうか。(田辺・近藤)

『持続可能な開発目標 (SDGs)』

2030年、尊厳への道：貧困を終わらせ、すべての人々の生活を変革し、地球を守る

◎ SDGsの遂行に向けた6つの本質的要素

尊厳：貧困根絶と格差是正

人々：健康な生活と知識、及び、女性と子どもの包括

繁栄：強力、包括的、かつ、変革的な経済の成長

地球：すべての社会と子孫たちのための生態系の保全

公正：安全で平和な社会と強力な組織・制度の促進

パートナーシップ：持続可能な開発のためのグローバルな団結の促進

contents

活動フォトニュース	2
シリーズ この人に聞く 第5回 たかの てるこさん〈世界を知る!一人旅のすすめ〉	4
活動紹介 ユニセフ・ビンゴもやってます	6
活動日誌 (2月～4月)	7